

第10回（平成26年度）

美の里づくりコンクール表彰対象事例一覧

【農林水産大臣賞】 1点

となみし
砺波市（となみし富山県砺波市）

【農村振興局長賞】 2点

よね
米地区保全会（さけがわむら山形県鮭川村）

こすがぬま
小菅沼・ヤギの杜（もり富山県うおづし魚津市）

【美の里づくりコンクール審査会特別賞】 3点

くらかげさんろく
鞍掛山麓千枚田保存会（しんしろし愛知県新城市）

かみせ
神瀬の未来を語る会（おおだいちょう三重県大台町）

さんのうじほんごう
山王寺本郷棚田実行委員会（うんなんし島根県雲南市）

平成 26 年度（第 10 回）美の里づくりコンクール

受賞地区の概要

農林水産大臣賞

富山県 砺波市 砺波市

散居村の景観を次世代に引き継ぐ ～先人が築いた文化的景観～

砺波平野の散居村は、「カイニョ」と呼ばれる屋敷林に囲まれた家々が平野一面に点在し、緑に囲まれた小島が大海原に浮かぶ姿を連想させる。この景観は、日本の農村の代表的な原風景の 1 つとして、国内だけでなく世界に誇ることができる素晴らしい景観である。

その景観を構成する重要な要素が杉を主体とした屋敷林であり、防風林としての機能のほか、落ち葉や小枝は燃料に、燃やした灰は水田の肥料に、そして成長した樹木は家を建てるための建材とするなど、循環型の生活の基礎となっていた。しかし近年、農業形態や生活様式の変化などにより、それらの機能が代替されることで、落ち葉の処理や枝打ち等の維持管理に負担が生じることから、屋敷林を伐採する家が見られるようになってきた。

そうした中、カイニョ風土と文化の充実・発展に寄与することを目的に、民間有志による「砺波カイニョ倶楽部(会員 95 名)」が屋敷林見学会や掃除、屋敷林に関する勉強会などを実施、また屋敷林に囲まれた伝統的家屋にも空き家が増加しているが、「NPO 法人砺波土蔵の会」が中心となり散居村民泊モニターツアーや空き家実態調査を行っている。

行政でも、平成 14 年に散居景観保全事業を創設し、「散居景観を活かした地域づくり協定」を締結した集落に対して、屋敷林の枝打ち費用や育成費用、景観保全を目的とした研修会活動の費用などの取組み支援を、また平成 26 年 4 月からは砺波市景観まちづくり条例と砺波市景観まちづくり計画を施行するなど、民間と行政が一体となって散居景観の保全に取り組んでいる。



砺波平野の美しい散居景観



伝統的家屋と屋敷林とチューリップ畑

農林水産省農村振興局長賞

山形県 鮭川村 米地区保全会

地域の自然を大切にしながら交流の輪を広げる

山形県最上郡鮭川村の片隅に位置する米（よね）地区は、湾曲する鮭川に囲まれた世帯数9戸の小さな集落である。

この地区では平成17年から里山の景観と自然を大切にすることを基盤に地域づくりに取り組んでいる。地区の農業用水の水源でもある沢筋には、昔はヨシ刈場として利用されていた湿地が荒れ放題となっていたが、ここを再生し湿原として復活させている。

米地区では毎年春と秋にはボランティアと共同で「米湿原」の管理作業を行い、また交流会も実施している。今ではサギソウなどの希少な植物も花を咲かせ、ハッコウトンボも復活し、村内の子ども達にとって貴重な環境教育の場となるとともに、村外からの観光客も訪れるようになった。また伝統食である「くじら餅」づくり体験、田んぼ作り体験教室、田んぼの生き物観察会など、米の里山を利用しつつ、環境教育や伝統文化の伝承などに取り組んできた。

こうして小さな集落ではあるが交流人口が増える中で、地区も活気づき、また新しい経済活動の方向性も見えつつある。



ボランティアとともに春の湿原保全活動



杭がけをした体験田

農林水産省農村振興局長賞

富山県 魚津市 小菅沼・ヤギの杜

みどりの香り&みどりの風が吹く小菅沼・ヤギの杜

～豊かな自然との共存を目指して！～

小菅沼は標高 230m の位置にあり、富山湾、市街地、棚田、森林がパノラマ空間を形成しており、松倉城跡を含む史跡が点在し、そのアクセスとしての重要な位置にあり、その史跡の保護活動や地形を活かした里山公園の造成をグループで取り組んでいる。そして、鳥獣害対策や中山間地の活性化を図るためにヤギを導入してその利活用を試みている地域である。ヤギは家畜としては扱いやすく、急斜面の下草刈りを行い、また人と馴染みやすく市街地から人々がよく訪れるようになった。

ヤギ牧場周辺には、雑草や雑木を除伐し廃車の撤去を行い、山の小路のポケットパークを整備し、訪問者の憩いの場となっている。また山の幸・野の幸に恵まれた小菅沼では、都市との交流を図るためにコラボルームをグループで建設し、食の体験会や自然観察会を開催する拠点としている。地域の高齢者と地域内外の有志が協力し活動を進めている。



ひまわりとヤギ



都市住民とともに自然観察会を開催

美の里づくり 審査会特別賞

愛知県 新城市 鞍掛山麓千枚田保存会

先祖の遺産 四谷の千枚田を地域の宝としたむらづくり

愛知県新城市四谷地区の鞍掛山の南西斜面(高低差200m)には、420枚、3.6haの棚田が階段状に連なっている。この棚田は「四谷の千枚田」と呼ばれ、日本の棚田百選にも選定されている。

昭和46年までは、1,296枚あった棚田も平成元年には373枚までに減少した。個々の農家の力では棚田の保全継承に限界があり、平成9年に念願の「鞍掛山麓千枚田保存会」を発足し、同時に保全に向けた数々の活動が活発化した。

棚田の農作業は、作業性も生産性も著しく悪く、「誰かが止めれば俺も止める」と逼迫した状態であったが、平成12年度から14年度に「ふるさと水と土ふれあい事業」により、作業道(景観道)、ふれあい広場、休息施設等が完成した。これまでは、耕運機の出し入れや、背負板と一輪車に頼っていた難儀な土道も軽トラの乗り入れが可能となり、農作業が驚くほど楽になった。

保存会の活動は、耕作放棄地が出た場合、農業を希望するボランティアに農地を紹介するとともに、農業の指導や水管理等を保存会でサポートし、耕作放棄地解消に取り組んでいる。また、都市部から素晴らしい棚田景観に癒しを求め徐々に人々が訪れるようになり、千枚田売店の会「棚田っ娘」や「連谷お助け隊」と連携し都市農村交流を図っている。さらに、地元の市立連谷小学校(全校児童 4 名)は郊外学習の一環として稲作や環境調査などを実施している。



四谷の千枚田



「連谷お助け隊」とともに草刈り活動

美の里づくり審査会特別賞

三重県 大台町 神瀬の未来を語る会

気持ちを一つに夢実現！未来へつなごう神瀬の郷

～神も茶の香にさそわれて～

日本一降雨量の多い大台ヶ原を源とする、一級河川宮川を有する大台町。農地の大半は、町の中央を流れるこの宮川に向かって、緩やかな傾斜をつくり出す。宮川から発生する霧はこの地形を包み込み、神瀬はその霧を活かすことで茶業が盛んになった集落である。神瀬の茶畑は、お茶の産地大台町の中でも特徴的な景観をつくり出している。

また、平成16年度に世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」いわゆる「熊野古道」が集落内を通っている。熊野古道の来訪者に心地よい空間を提供するための活動はもちろんのこと、神瀬に住む住民自身が景観の美しさに誇りを持てるよう、集落への入口の景観整備をするなど熊野古道沿線の景観と環境の復元・整備に努めている。

また、住民の心の風景である茶畑の景観を後世まで引き継ぐことを目的として、お茶に付加価値を生む取り組みも実践してきた。神瀬のお茶を使って町内企業と連携した新たな商品開発にも取り組んでいるところである。

この活動を契機に、大台町役場や大台町観光協会などとの連携も強化され、様々な場面でPRしてきたことで、少しずつ神瀬の存在が知られるようになってきた。



茶香ただよう神瀬



熊野古道の整備

美の里づくり審査会特別賞

島根県 雲南市 山王寺本郷棚田実行委員会

神楽と雲海で広がる人々の輪

山王寺本郷地区は、標高 300m の山腹に約 200 枚、19ha の棚田があり、日本の棚田百選にも選ばれている。

過疎・高齢化の進行が激しく、平成 24 年度末の高齢化率は 78%ではあるが、島根県無形文化財指定の「山王寺神楽」を伝承し、「雲海の里」というすばらしい原風景を維持する活動を平成 18 年から続けている。

中でも「田んぼの学校」は毎年開校し、農作業体験や自然体験を通じて、都市住民に「棚田の保全活動」や「農村地域の多面的機能」について理解を深めてもらっているが、一番の効果は子どもの声が田んぼで聞けるようになり。地域住民の励みになったことである。

棚田オーナーや棚田トラストにも取り組み、またワークショップを通じて棚田米のブランド化も行い、積極的に棚田保全、景観保全に地域住民みなで取り組んでいる。



棚田の夜明け



山王寺棚田祭りでの「山王寺神楽」